

令和2年度後学期 授業評価アンケート結果のまとめ

※新型コロナウイルス感染症の影響により、本学期の授業は実験・実習系科目を主とする全体の2割程度のみ対面で、それ以外はオンラインで実施した。ただし、前学期のアンケート結果から得られた知見に基づき、大学および学生の通信環境が整ったことも考慮して、オンライン授業は原則として同時双方向でおこなうこととした。

1. アンケート実施方法

(ア) 評価対象は全授業。

(イ) Web アンケート方式で、授業の最終回に学生に対して回答を要請する。

2. アンケートの内容

(ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれ10：5：0の10点満点に換算して平均点を求め、それらの合計を総合評価点（100点満点）とする。なお、項目1-1と1-6はオンライン授業との整合性をとるため、昨年度までのものから変更されている。

(イ) 設問3：授業で身に付いた力。DPに示された6つの力に対応する項目に対して、当てはまると思うものを選択する。

(ウ) 設問4：履修の動機および1回の授業あたりの学修時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選び回答する。学修時間については、前学期に引き続き、授業外学修時間ではなく、授業1回あたりの総学修時間を回答するものとした。

3. 解析結果：履修登録人数15名以上、回答数10名以上のもののみを対象とした。回答率は履修登録数分母で75%となり、前学期と比較するとやや低下した。

(ア) 設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、対象授業すべてに対してまとめて図1に示した。昨年度、一昨年度の結果と比較すると、共通する設問8つすべてで平均点が高くなっている。コロナ禍の影響でやむを得ずオンライン授業を実施したが、そのことが教員の授業に向き合う姿勢の改善や授業方法の工夫に繋がった可能性が考えられる。ただ、オンライン対応で新たに設定した「学生同士の意見共有の機会」については、本年度前学期よりやや改善したものの、他と比較して低めの評価となっている。

(イ) 図2には、オンラインで実施された講義・演習・共通基盤科目の総合点分布を示した。昨年度と比較して85点～95点の授業が相対的に増えており、同一の条件でアンケートがおこなわれた本年度前学期と比べても、評価が全体としてかなり高くなっている。その主な要因としては、①オンライン授業を原則として同時双方向でおこなうようにした、②(ア)でも書いた授業に対する教員の意識やスキルの向上、③学生のオンライン授業への慣れ、などが考えられる。

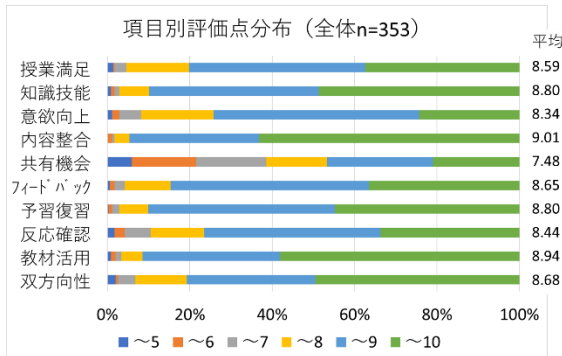


図1 項目別評価点の分布 (全体)

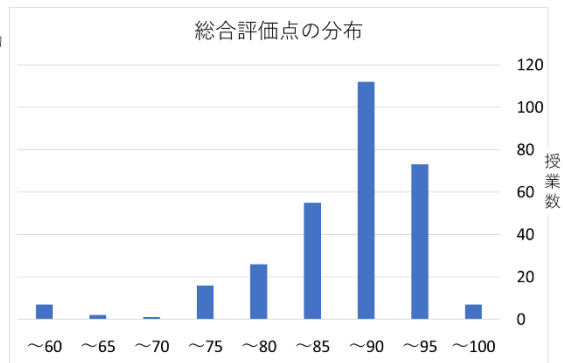


図2 総合評価点の分布 (講義・演習)

(ウ) 図3には、授業1回あたりの学修時間を、学期を通してオンラインで実施された講義等と共通基盤WSについて、それぞれ示した。回答の選択肢が変更されたため昨年度以前との比較は難しいが、本年度前学期とはほとんど同じ(わずかに増加傾向)結果となっている。

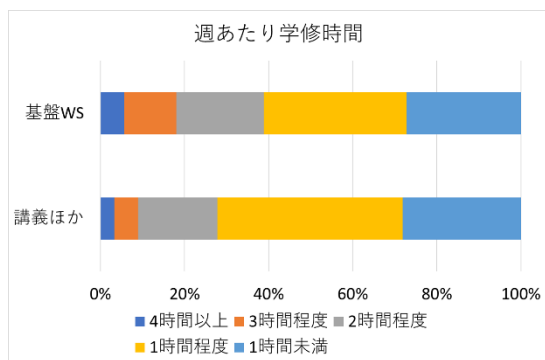


図3 授業毎の1回あたり学修時間

(エ) 図4には、身に付いた力6項目の選択率を、学期を通してオンラインで実施された講義等と共通基盤WSについて、それぞれ示した。昨年度との比較においては、講義ほかではほとんど同様であった一方で、共通基盤WSでは全体に選択率の低下が認められ、特に繋げる力の選択率の減少が明らかであった。これらはオンライン授業の影響によるものと考えられる。また、本年度前学期との比較でも、講義ほかの結果はほとんど同じとあってよい結果であった一方で、共通基盤WSの結果は全体に選択率がやや下がる傾向が見られた。この傾向はこれまでも見られており、その理由としてワークショップ型の授業に対する学生の慣れがあるのではないかと考えている。

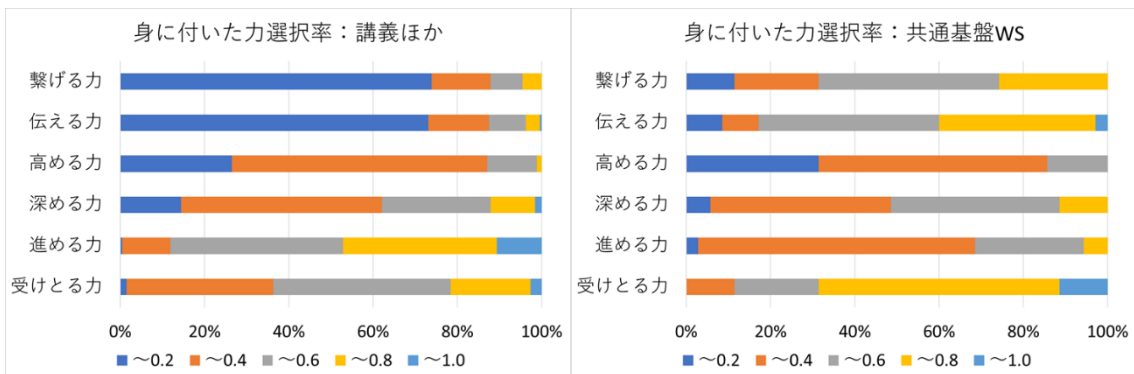


図4 オンライン授業で身に付いた力6項目の選択率

